

「中学生の税についての作文」優秀作品表彰

11月27日、役場において「中学生の税についての作文」の表彰式が行われました。富士見中学校から、作文127点が応募され、そのうち「長野県租税推進協議会長賞」「税理士会諒訪支部長賞」を各1名ずつ受賞し、「富士見町長賞」を5名が受賞されました。

【受賞作文】

●長野県租税推進協議会長賞

「明るい未来のために」
富士見中学校3年

力テザ ニヤーシャ
「明るい未来のために」
富士見中学校3年

●税理士会諒訪支部長賞：1名
「税金とニユーディール 政策と経済」
富士見中学校3年 五味 瑞季

●富士見町長賞：5名
「私たちの暮らしと税」
富士見中学校3年 小林美咲紀

「税金について見つめなおす」
富士見中学校3年 五味 蘭

「税金の正体を見つけました」
富士見中学校3年 平出 磨彩

「税金の大切さ」
富士見中学校3年 坂本 悠里

「今後の消費税について」
富士見中学校3年 清水 敬太

◎受賞作文から2点をご紹介します。

「明るい未来のために」

富士見中学校3年
力テザ ニヤーシャ

「あーあ。また税金が上がるのか聞こえてくる。私はそんな言葉を聞いて「税金ってよくないものなのかな」と思っていた。そこで、なぜ大人が税金について前向きではないのかを考えてみた。そして思いついたのが、次のような事だった。

税金を払う時は金額が高いし、街で買い物した時のようにその場で何かが手に入るわけでもない。そのため、税金を払う時は大金を失ったように感じるのではないか。それならば、税金で賄われている物やサービスを毎月リストにして、税金を払っている人達に報告したらどうだろう。そうすれば、税金が何に役立つていいのかがわかつて、税金は「ありがたいもの」という意識に変わるのでないだろうか。

「あーあ。また税金が上がるのか聞こえてくる。私はそんな言葉を聞いて「税金ってよくないものなのかな」と思っていた。そこで、なぜ大人が税金について前向きではないのかを考えてみた。そして思いついたのが、次のような事だった。

税金を払う時は金額が高いし、街で買い物した時のようにその場で何かが手に入るわけでもない。そのため、税金を払う時は大金を失ったようだ。それならば、税金で賄われている物やサービスを毎月リストにして、税金を払っている人達に報告したらどうだろう。そうすれば、税金が何に役立つていいのかがわかつて、税金は「ありがたいもの」という意識に変わるのでないだろうか。



税金について調べてみたところ、

税金は絶対に必要なものだとわかった。納められた税金は、私達の安全を守つてくれる警察・消防や、道路・水道の整備といった「国民に役立つ公的サービス」や、年金・医療・福祉・教育など「社会での助け合いのための活動」に使われていることがわかった。

ある日の午後、母から連絡があり、急に早退することになった。母が救急車で病院に運ばれたらしい。母と病院に向かい、病室に入ると、ベッドの上に祖母が寝ていた。祖母が私の名前を呼んだ。ほつと肩から力がぬけた。後で聞いたところ、運ばれたとき、祖母の意識はなかつたらしく。その後、祖母は一週間程で退院し、今は自宅療養している。もし、あの時救急車が来なかつたら……。

私にとって一番身近な公的サービスは、学校教育。寒さの厳しい富士見で冬も快適に学校生活ができるのも税金のおかげだ。外国では、教科書は貸出で、一年終わると学校に返す。年金に使われている税金についても考えた。年金は、まだ働いている若い人達が負担している。自分が定年退職したら受け取ることになる。年金は自分のためではなく、

「税金とニューディール政策と経済」

富士見中学校3年 五味

ごみ

瑞季

高齢者のために使われていると考える人もいると思う。少し違う考え方をしてみてはどうだろうか。「未来の自分のため」に払うお金。このように考えれば、税金を払う事に前向きになれると思う。これは年金だけに限らないと思う。税金を払つても、その場で何も見返りはないかもしれない。でも、税金は絶対に必要。それは、明るい未来のためのお金だから。税金は国民が払うということは、明るい未来は国民全員が創る。

私もいつか就職して税金を払う時が来たら、前向きな気持ちで払おう。

私たちは国に所得税、法人税、消費税など様々な税金を納めています。また、それは義務なので、必ずやらなければなりません。では、その税率はどうか。私はそのことを考えた時、世界恐慌の時にアメリカのルーズベルト大統領が行つたニューディール政策を思い出しました。

ニューディール政策は、世界恐慌で職を失つた人々に職を与えるためにとられた政策でした。その中の一つが、公共事業で仕事を増やすというものです。実際、アメリカはダムを作るという仕事を 국민に与え、アメリカの人達はダムを作り、給料をもらいました。給料からは所得税が産まれ、国へ行きます。また、給料をもらえば生活に必要な物を買うことができます。物を買うと消費税が産まれ、国に行きます。そして集まつた税金をまた公共事業に使えば……。人の税金も産れます。

では、もし消費税が上がつたらどうなるでしょう。今まで百五円だった物が百十円になります。ちよつとの変化かもしれません、これが大きくなればいい物だつたら、と考えると大きな変化だと思います。値段が高くなると、今まで買つていたけど買わないや、となってしまいます。

それなら、どうすれば税金が国に入り、経済も回復するのでしょうか。私はまず無職の人を無くし、お金を動かすべきだと思います。世界恐慌中のアメリカのように公共事業に税金を使い、それを行うために仕事を与えれば無職の人も減り、所得税などの税が国に入り、またお金も動くので、経済も回復します。

税金について父に教わった時、父が「税金について考えるなら、総合的に全体を考える必要があります」と言つていました。税金は所得税・法人税・消費税と単体で考えず、全体を見渡して考えないとバランスがとれないと思います。税についてだけではなく、政治も国で今行つている政策や国の状態をよく見渡して考えないといけないと思います。何事も、周りをよく見渡して考えることが大切だということを学びました。

